

○駅を中心とした、我孫子、天王台、湖北、新木、布佐の5つの地区は、地形、交通上の特性や歴史の積み重ねの中で、市民生活と密接にかかわりながら形成され、地区ごとの個性を育くんできました。

○魅力あるまちをつかっていくためには、市民生活の基盤である地区からまちづくりを実践していくことが重要です。

○そのためには、地区にくらす市民の主体的なまちづくりを支え、市民と協働で地区づくりに取り組むことが必要です。

○基本構想の「地区別構想」では、5つの地区毎にそれぞれの特性をいかした将来像を示しています。この将来像は、市民とともにすすめるまちづくりの目標であるとともに、それぞれの個性が結びつき、市全体の将来都市像を実現していくものとして位置づけられています。

○市全体の人口は平成27年をピークに減少に転じることが見込まれ、昭和40年～50年代に開発された多くの住宅地域では、高齢化率が平成27年には35%を超え、急速に高齢化が進みます。

○地域での高齢化が加速するとともに、地域でのつながりが希薄化している中、地域の防犯や防災、地域の福祉など生活の安全・安心に向けた取組みに適切に対応することが今まで以上に必要となっています。また、東日本大震災で我孫子市も被災地となり、平成23年7月に実施した市民アンケートでは、市民はこれまで以上に、医療や防災・防犯・危機管理など「安全・安心」に関する施策の充実・強化を求めています。

○そのため、地域の人々が地域の情報を共有し、地域で支え合うしくみを再構築できるよう地域コミュニティの活性化に取り組むとともに、地域の特性や課題を踏まえ、地域の実態にあった効果的な施策を展開していきます。

○地区別計画は、地区の状況を踏まえながら、分野別計画の7分野の施策展開を地区の視点でとらえ、3つのまちづくり方針（「人のつながりを深めるまちづくり」・「地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり」・「安全で快適な暮らしを支えるまちづくり」）に分類・整理して示したものです。

